

堆積岩標本セット (ver.3)

岐阜聖徳学園大学教育学部地学ゼミ



泥岩(頁岩)
mudstone

細かい泥が堆積してできた黒っぽい岩石。薄くはがれやすい泥岩は頁岩(けつがん)と呼ばれる。ジュラ紀の付加体(ふかたい)である美濃帯を構成する堆積岩。岐阜県山県市を流れる神崎川の河床で採集。



砂岩
sandstone

砂粒が集まってできた堆積岩。やや細粒のものはシルトと呼ばれることがある。粒が比較的粗いものはざらざらした手ざわりがする。三重県いなべ市の青川の河原で採集した。ジュラ紀付加体である美濃帯を構成する砂岩。



礫岩(れきがん)
conglomerate

灰色の砂質の部分に黒色の小石(礫)が混ざった堆積岩。黒っぽい礫は泥岩。ジュラ紀の付加体である美濃帯の堆積岩。岐阜県揖斐川町坂内を流れる坂内川の河床で採集。板取川や根尾川でも採集できる。



礫岩(れきがん)
conglomerate

角がとれた小石サイズの石(礫)を多く含む堆積岩。中生代ジュラ紀に堆積して固化したもので、富山県・新潟県に分布する手取層群または来馬層群起源と考えられる。標本は、富山県の宮崎海岸(ヒスイ海岸)で採集した。



チャート
chert

細かい石英粒子からなる硬い堆積岩。赤色、褐色、暗緑色、黒色など色には変化がみられる。硬いため丸くなくにくい。岐阜県山県市を流れる神崎川の河床で採集。放散虫(ほうさんちゅう)の化石が含まれることがある。



石灰岩
limestone

炭酸カルシウムでできた堆積岩。フズリナ、有孔虫などの化石を含むものがある。泥を多く含むものは黒っぽい。ジュラ紀の付加体である美濃帯中に石灰岩体として産する。岐阜県山県市を流れる神崎川の河床で採集。



クリメニア
Cymaclymeniidae

古生代デボン紀末期に繁栄した古生代型アンモナイト。中生代に繁栄したアンモナイトに比べると縫合線(殻の表面の線状の模様)が単純。モロッコ南東部で採集した。



凝灰岩(ぎょうかいがん)
tuff

火山灰が地表や水中に堆積してできた堆積岩。白っぽい色をしているが、風化すると緑色っぽくなる。褐色の部分は粘土鉱物でできている。標本は石材として利用されている茨城県産の大谷石(おおやいし)で、約2000万年前の新生代中新世の火山活動で堆積した。